

令和7年度版「学力向上ポートフォリオ(学校版)」【尾間木中学校】

⑥	次年度への課題と学力向上策
知識・技能	
思考・判断・表現	

①	今年度の課題と学力向上策	
	学習上・指導上の課題	学力向上策【実施時期・頻度】
知識・技能	<学習上の課題> 基礎的・基本的な知識・技能の習得が十分とはいえない教科がある。 <指導上の課題> 習得した知識・技能を活用する学習活動を学級全体で設定しにくい。	⇒ スタディサプリの活用、ドリルパークやFormsでの小テスト等を活用し、基礎的・基本的な知識・技能の反復・習熟に取り組む【教科ごとに定期的に実施】
思考・判断・表現	<学習上の課題> 国語の「話すこと・聞くこと」の内容において、学年間で差ができています。 <指導上の課題> 子ども主体の学びとなるような授業や言語活動を通した生徒同士の関わりの場が、教科や学年によって差がある。	⇒ 校内研修での教科の枠を超えた話し合い活動や教科会での情報交換を通じて、各教科において、個々の課題解決に向けた活動や言語活動を通した生徒同士の関わりの場を多く取り入れる【教科ごとに定期的に実施】

⑤	評価(※)	学力向上策の実施状況
知識・技能		①結果分析(管理職・学年主任等) ②詳細分析(学年・教科担当) ③分析共有(児童生徒の実態把握) 職員会議・校内研修等
思考・判断・表現		

②	全国学力・学習状況調査結果について(分析・考察)	
知識・技能	数学の「知識・技能」における正答率は、全国および県の正答率と比較すると同程度かそれ以上であり、概ね良好であった。各教科の授業における基礎的・基本的な知識・技能の反復・習熟の取組みの成果が着実に表れていると考えられる。しかし、国語の「言葉の特徴や使い方に関する事項」については、やや苦手とする傾向が見られた。理科については「知識・技能」に関わる設問に対する正答率が全国および県の正答率と比較すると低かった。	
思考・判断・表現	国語・数学の「思考・判断・表現」における正答率は、昨年度と比較して上回っており、概ね良好であった。また、国語の「書くこと」における正答率は、全国および県の正答率と比較すると他の項目よりも大きく上回っていた。各教科において、個々の課題解決にむけた活動や言語活動を通した生徒同士の関わりの場を多く取り入れる取組みの成果が着実に表れていると考えられる。理科については実験等に関する思考力に課題を感じる結果であった。	

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(おおむね達成) C 6割未満(あと一歩)

- ①結果分析(管理職・学年主任等)
②詳細分析(学年・教科担当)

④	さいたま市学習状況調査結果について(分析・考察)
知識・技能	
思考・判断・表現	

③	中間期報告	中間期見直し
	評価(※)	学力向上策の実施状況
知識・技能	B	多くの教科で、定期的に基礎的・基本的な知識・技能の反復・習熟に取り組むことができていた。
思考・判断・表現	B	各教科において、個々の課題解決にむけた活動や言語活動を通した生徒同士の関わりの場を取り入れることができた。

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(おおむね達成) C 6割未満(あと一歩)